

平成 30 年度

事 業 報 告 (案)

社会福祉法人白老宏友会

指定障がい福祉サービス事業
多機能型事業所 ポプリ

目 次

I、総 括	1～3
II、就労継続支援B型事業	3～6
III、生活介護事業	6～7
IV、日常生活支援	7～8
V、健康管理	8～9
VI、給食業務	9
VII、管理業務	9～10
VIII、利用関係状況報告	11
添付資料 年間活動一覧	12～14

I 総括

白老町では、2020年の民族共生像徴空間（ウポポイ）の開設まで1年を切り、国内外から年間来場者数年間100万人が期待される中、駅周辺整備をはじめ、駅北に計画されているインフォメーションセンターなどの整備が進行しており、インバウンドを含む交流人口の増加が想定される中、回遊性の向上を期待し、大町を中心とした飲食店や、民宿施設などの新設などを含む整備が進められた一年でした。当法人においては、4年前より駅北側に、白老町商業・観光振興計画が進められ、町より事業への参画の打診を受けるなど、法人又事業所としてどのような参画の在り方が、望ましいのか研鑽を重ねて参りましたが、何度も計画が白紙に戻される中、当初の計画より変更が見られたため、慎重に検討を重ねた結果応募を断念することに決定しました。そんな中、年度末 国立博物館開設事業の委託を受けている株式会社電通北海道より、エントランス前、歓迎の広場内における販売ブース出店に関する説明を受け、6月までに予定している一般公募に向け、現在 双方で検討を行っているところであり、設備や条件などの関係により現状見通しの立たない不透明な状況にあります。上記のことを踏まえ、白老町内に国立博物館が開設することにより、町の活性化に繋がることは間違いなく、一方国の施作にもある、多文化共生、地域共生社会の実現に向け、我々社会福祉法人の立場として、利用者の社会参加の機会や、豊かな生活の提供と活動の拡充、事業発展の推進を図るうえでどのような在り方が望ましいのかを模索する一年でもありました。

運営状況については、昨年9月に発生しました東胆振大震災後、法人内にて防災委員会を立ち上げ、利用者の安全を重点の課題とし、今後の災害時対策について会を重ね、防災設備、避難経路の確認、緊急連絡網の他、災害時対策マニュアルの整備を行いました。ポプリにおいては、災害による停電時の緊急対応として、食材、原料の確保（冷蔵、冷凍設備）、機械設備の使用を目的に大型の発電機を整備した他、冬期災害時対策として灯油式のストーブや非常災害品などの整備を行いました。その他、避難訓練を全2回実施し、全体で津波、地震、火災を想定した避難訓練を実施しました。その他の研修については、上記の様な災害や、事故による緊急時に対応できるよう引き続き白老町消防職員を講師に招き、救急救命講習を全職員で受講し、AEDの取り扱いや心肺蘇生法などを学習しました。また、感染症予防や授産活動（食品事業）における食中毒防止、利用者の日常的な衛生保持を目的に、苫小牧保健所に講師を依頼し、利用者向けの食品衛生講習会を継続的に行った他、環境面においては、上記を含む衛生保持のため、毎日の館内消毒及び清掃に留意してきました。

職員の体制については、昔とは違い売り手市場の状況にあり、民間企業及び当法人においても人材不足が懸念される中、法人においては、求人活動に力を入れ、各種就職・求職説明会などに積極的に参加した他、各学校関係への求人アプローチ、インターンシップの受け入れなどを実施し、新年度は4名の新卒者の採用に繋げることができました。ポプリにおいては、近い将来の定年退職者などを含む予測を立てながら、専門職としての知識、技術の継承などを含め計画的に体制の確保に努めてきました。また、人材育成については、当事業所に限らず法人規模が大きくなるほど、職員のモラルの適正化や職務に対する意識の向上の課題が大きくなってきており、幹部職員をはじめ組織全体で意識改善に努めていく必要があり、人材育成、相互育成を踏まえ、支援の質の向上、安定運営への取り組みを重要視してきました。そのため、法人内においては、キャリアパス研修の他、引き続き内部研修（研修発表会、

事例発表会)を実施し、更に、昨年度より正規職員を対象に人事考課制度を導入し、インセンティブの付与を基本に人材育成を目的とし、職員の状態の把握や、課題の整理、スキルの向上に努めてきました。ポプリについては、人事考課に限らず、全職員の定期面談を実施し、職員個々の状態の把握や必要に応じて相談、指導、育成等を行ってきました。また、引き続きサポーターズガレッジ(オンライン職員研修)を活用した他、新任研修をはじめ、個々の課題に則した外部研修などを計画的に行ってきました。また、職員の情報の共有の強化を図るため、会議の形式を見直し出席した職員が意見交換しやすい環境に移し、プロジェクターを活用しながら取り組みました。また、各部署のスタッフ会議においては、可能な限り部署内の全職員が参加できるよう勤務調整等を行い、連携、又チーム力向上に努めてきました。

生活介護事業については、引き続き療育活動、創作活動、知育活動、レクリエーション、生産活動など、個々の利用者の特性や体力面を考慮し、活動内容の創意工夫を凝らしながら充足した生活となるよう取り組んできました。生産活動については、既存の請負作業を、引き続き同法人の『みらいえ』と連携を図り積極的に取り組んできました。授産活動の売上については、国立博物館建設に伴い、アイヌ民族博物館の取引が停止したこともあり、自家焙煎珈琲豆をはじめ、お茶製品等、全体的に売上の落ち込みが見られ、前年度に比べ約55万円減収しています。

利用者の日常的な健康管理や安全面、緊急時の対応を目的に、一昨年よりポプリ専従の看護師1名を配置してきましたが、更なる体制の強化を図るため、昨年度10月に1名の看護師を補充し更なる医療体制の強化と対応の充実を図ってきました。また、地域生活支援センターとの連携を図り、定期的なケース会議や情報交換を密にし、安心して充実した生活を送ることができるよう取り組んできました。

就労事業については、売上げの向上、工賃財源の確保、安定経営を目的とし、パン、菓子、餅などの製品開発の研鑽を行ってきた他、各種イベントなどの活動を実施してきました。集客率向上を目的とし宣伝活動を含め取り組んでいる札幌外部販売活動では、月平均2回の出展を継続的に行った他、札幌三越で開催される北海道物産展より声を掛けて頂く機会が増え確実に顧客数の増加と共に売上げの向上に繋げることができました。宣伝活動については、上記に限らず、HPやSNSを活用しタイムリーなお客様への情報提供を行い集客率向上に取り組んできました。

国立博物館開設に向け取り組んできた土産製品開発事業(菓子製品)につきましては、計画通り進行しており、最終段階であるパッケージデザインを札幌市立大学デザイン学部へ依頼し、その完成に向け取り組んできました。

就労活動収入においては、札幌外部販売の効果もあり、週末 地方からの集客が増えてきている他、今年度は、阪急バスツアーの受け入れや、町内のお寺より引き出しによる大口の取引があったことにより途中増額補正をかけ、7800万円の収入目標を立てましたが、地域問題(人口の減少、少子高齢化)や原料、水道光熱費の高騰が影響し、結果 わずか予算の目標金額にとどまませんでした。支出については、上記問題と向き合きながらも全体で努力し、約46万円の積み立てを収めることができました。また、目標工賃金額においても、達成し、支給することが出来ました。

前年度まで低価格製品の提供を売りに消費税5%を基準とした価格設定で努力してきましたが、原料の高騰や工賃向上計画を進める中、収支差益に余裕がない状況にあり、適正価格

への引き上げを行ってきましたが、上記収支結果により、更なる価格の見直しや、新年度10月に予定している消費税増税を踏まえた事業の推進が課題となってきます。

設備整備については、建物の老朽化に伴い、食品衛生に則し、ポプリ内床の全面張り替えを行いました。また、ななかまどにおいても、工場内床の全面塗装を行った他、冷凍冷蔵庫の更新や屋根のシートの張替、2階休憩室の壁の修繕を実施しました。その他、PCの入れ替えや給食の栄養バランスの充実を図るため、栄養ソフトを更新、休憩室のソファの更新や食堂のテーブル、椅子の更新などを行いました。

機器設備では一昨年度末に購入しました包餡機を活かし、作業の効率化を図ると共に、新製品の開発に向けた取り組みを行いました。

生活介護については、活動の幅と充足に向けて屋外に10メートル四方の芝の環境を整備しました。

法人全体の動きについては、生活介護の需要が高まる中、利用定員は満度に等しい現状にあり、その一方で利用者の高齢化が進んでいる他、上記 国立博物館内出店の検討における今後の方向性について、事業再構築のための中期計画の策定が求められます。

また、消費税増税、軽減税率への対策の他、将来を見据え、安定した事業の推進を図る為、引き続き人材育成を課題としていきます。

その他については、特段大きな事故もなく充実したサービス提供と適正な運営を行うことが出来ました。

II、就労継続支援B型事業

■就労事業概要

利用者主体の事業形態を前提に定め、就労活動の充実と豊かな生活の提供を課題に置き、利用者工賃還元額の向上と、充実した日中活動サービスの提供に努め、その財源となる就労活動収入の安定と増収を目指し、事業を推進してきました。今年度の当初予算での就労会計目標売上は74,600,000円でしたが、引き出物注文と、阪急交通社バスツアーの受け入れに伴う増収を見込んで3,400,000円の増額補正を行い、78,000,000円を想定してきました。9月の胆振東部地震による停電などの二次災害等の影響で経済活動が停滞した事や、また原油の高騰や人材不足により物流コストが上昇した事で、売り上げ確保が懸念されました。各種イベント販売活動や定期的に新作パンの販売、商品の見直しを行い、お客さんに寄り添いながら販売を行ってきたことで30年度の総収入実績は77,641,599円となりました。利用者工賃につきましては『工賃向上計画』に基づき20,383,074円（前年度実績：20,377,980円）を支出し、目標としていた平均工賃月額35,800円に対し一人当たり平均35,948円（昨年度35,563円：385増額）を還元する事が出来ました。

■食品事業

平成30年度については、引き続き地元消費者に愛される店舗づくりを課題に、低価格で美味しく付加価値の高い製品開発に視点を置き、消費者を飽きさせない店舗づくりを意識し、絶えず創意工夫を凝らし季節に因んだ企画、製品づくりを行いました。また、将来的に安定した事業運営に係る収入と工賃の財源を定着させ、ゆるぎない事業体系を確立してため、就労全

体で共通課題を持ち、協力体制の中取り組んできました。

ポプリ内パン工場については、引き続きパン・菓子・餅製品の製造を行い、店頭販売や卸し販売（病院・学校給食・老人ホーム・保育園等）、外部販売（丸井今井きたキッチン、どさんこプラザ）を行ってきました。更なる売り上げ向上を目指して29年度より始めました丸井今井きたキッチン新札幌店では、当初15万円程の売り上げでしたが、販売回数を重ねる度にお客さんからの反響がよく口コミで広がり、今年度後半から30万円程度まで売り上げを伸ばすことが出来ました。

製造面では昨年度に導入した包餡機を本格的に稼働した事で、札幌販売や年末の餅事業などで生産稼働率が向上し、作業の時短や利用者、職員の負担軽減に繋がった他、機械を利用者が操作、分解、清掃、取り付けなどが見守りの中できるようになり作業の拡充と、安定的な生産供給が出来るようになりました。また、包餡機を活用した新たな焼き菓子製品として「よもぎパン饅頭」を開発し、店舗で試作販売を行い、お土産製品として販売していけるよう札幌市立大学のデザイン学部デザインを依頼しパッケージデザインの作成を行いました。

技術面においては、付加価値が高く安定的な生産供給を図る為、製パン講習会に参加し技術指導を受けました。

ななかまどについては、引き続き町内をはじめ町外のお客様に喜んでもらえるよう「丁寧」をテーマに接客対応や製品の見直し、新製品の開発、季節に合わせたイベントの開催、日曜日営業等を行ってきました。

阪急交通社バスツアーの受け入れについては、来店したお客さんに喜んでもらえるよう当店自慢の人気商品や店舗のコンセプトを説明し知名度アップに繋がりました。26周年記念セールでは、地域のお客様に日頃の感謝を込めて、セール限定の目玉商品と10種類の新作パンの販売や店舗横の特設会場で実演販売を実施いたしました。

こうした取り組みから今年度においても年間の店舗利用集客数が約4万人まで達成し、一日平均120人のお客様が来店していただけるようになりました。

以上の事を踏まえ、将来的に利用者が安心して『働ける環境を確立』し、豊かな生活を営むための『工賃財源の確保』を保持していくためにも、民間企業同様の視点を持ち、時代の流れを絶えず察知しながら新しい物に目を向けた事業運営と危機感や探求心を持ちながら取り組む姿勢が不可欠であると考えます。2019年度については、以上の事を課題に置き、更なる発展が遂げられるように、引き続き全体が共通認識を持ち定期的に課題の整理を行いながら着実に前進していけるよう努めていきます。

1) 利用者支援

利用者主体の就労現場を意識し、利用者個人が就労意識や自立心を高め、就労活動を通じて社会性を養っていきけるような環境づくりに努めました。就労活動において、個人が抱える問題や悩み、また課題を明確にし、利用者一人ひとりが想いを主張し、目的に則した形で活動を行っていきけるように、定期的に利用者会議を行うなど、個人目標を立ててもらい活動を行ってきました。

個別の支援では一人ひとりの障がい特性を理解し、得意とする作業内容を選定し技術の習得と向上に努めました。技術の習得や成長には個人差は見られますが、社会性及び作業性共に個々の成長が見受けられました。

30年度については、更に利用者の主体性を高め、同時に作業意欲の向上を目指していくた

め、新作パンの開発企画として、利用者が考案したパンを職員がサポートしながら開発し、販売を実施しました。その結果、個人のモチベーションを高め活気に繋げることが出来ました。

2) 衛生保持、危機管理

食品を取り扱う部署としての意識を高めるため、日常的に必要な情報、知識等を適宜周知し食中毒や異物混入の防止に努めました。また安全な食品提供を行うため、作業場内の衛生保持に努め、白衣の点検、うがい手洗いの徹底を図りました。

危機管理においては、基本的に危険な機器を扱う部署でもあるため、機械の使用については職員の許可がある者に限定すると共に、取り扱いの注意を随時促すなど予測できる危険、事故については日常的に職員が目を配り事故防止に努めました。

苫小牧保健所の職員を招き、利用者さん向けの食品衛生講習会を開催し、感染症や食中毒予防に対する勉強会を開催しました。

3) 設備整備

ポプリパン工場：工場床の全面張替え工事（木製フローリングから塩ビシート）。

ななかまど：屋根の張替え工事。

作業場床の全面塗装工事。

2階食堂の壁の修繕工事。

ラベルプリンターの老朽化に伴う更新。

冷凍冷蔵庫更新

■給食事業部

就労事業として給食業務の実施を行い、利用者3名の個々に合った作業を提供することにより、技術の習得や責任感が育ち、出勤率の向上を図ることができました。また、給食会議に参加することにより職員との意見交換ができ、作業意欲の向上、社会人としての在り方を考えるきっかけとなりました。その他では、行事食（焼肉、流しそうめん）や誕生食の他、特別食（肥満食、刻み食など）の提供を行いました。また、外部委託給食として一休そばに依頼し本格的なうどんや蕎麦の提供を行いました。

白老東高等学校売店販売用の弁当製造を行い、収益の確保を目指すと共に利用者の主体性を育むことに重点を置き取り組みました。

作業面においては、安全面に配慮し、衛生管理の徹底を図りました。特に食中毒に細心の注意を払い、手洗い、消毒、適正な処理等、事故防止に努めました。

調理以外の作業として布巾縫いを行い、実生活でも役立つ練習にもなりました。

■施設外就労

30年度も施設外就労として総合福祉センターいきいき4・6の清掃事業と、(有)フォーレ白老にて菌床椎茸の浸水棚上げ作業を行ってきました。

① 清掃事業部

白老町より委託事業を請け白老町総合保健福祉センター（いきいき4・6）の日常清掃業務作業の活動を実施しました。地域住民が日常的に利用する公共施設内で行う委託事業であるため、地域との繋がりを大切に、評価、信用性を第一に意識するなど、業務上における事故防止などの安全に配慮し、日常業務に努めました。また、業務を通じて利用者個人が社会性や自立心を養い、作業技術の向上を図っていくため、月一回の支援者会議を行うなど、日常的に支援、指導を実施しました。

②（有）フォーレ白老

菌床椎茸の浸水棚上げ作業を利用者6～7名、支援員2名体制で、午前の作業とし取り組みました。企業先での活動の為、規律ある行動（挨拶や決まり等）を守り、企業側からの指示に従って活動してきました。また、作業場が滑りやすく狭いため、安全面に留意し、事故防止に努めながら社会性や自立心を持って行動していけるよう支援してきました。

Ⅲ、生活介護事業

個々の障がい特性やニーズに応じて活動を提供し、安定した日常生活の構築を目指し支援を実施しています。生産活動では、珈琲豆焙煎・野草茶製造作業、下請け作業等を行う中で過度な負担とならないよう創作・外出・余暇・療育活動を取り入れ、作業意欲の維持や向上、気分転換を図り、安心して活動が行える様に支援をしています。また、療育班を設けて活動の環境を整え、軽運動（電動ウォーカー、エアロバイク等）・療育を主とした活動を行い情緒の安定を目指しました。医療体制では、10月からポプリ専従の看護師を2名体制で配置し、利用者の健康管理や安全面、緊急時の対応に配慮しています。

【生産活動】

■自家焙煎珈琲

ななかまど店舗での販売実績の落ち込みや、地域顧客も固定されてきた状況が見られ、総額約150万円（海の別邸ふる川・喫茶売上も含め）の売り上げになりました。平成22年度より開始された事業である「元気まちコーヒー応援チケット」においては、今年度で9回目を迎え、12月の障がい者週間に開催された進呈式では、登録団体の9団体に87,300円を贈呈し、地域とのつながりへ役立てることが出来ました。取引先においては、心のリゾート海の別邸ふる川と月額平均30,000円と安定した取引を継続しています。又、札幌での販売では、どさんこプラザ・丸井今井きたキッチンにて販売を継続して行い、更なる顧客の確保と売上に努めました。

■野草茶

今年度、国立博物館／民族共生象徴空間「ウポポイ」の建設に伴い、クマササ茶・カキドオシ茶・黒豆茶の取引がありませんでした。また、年度当初にカキドオシ茶の原料が不足する状況下であり、原材料が入荷しない時期も重なった為、店舗での販売やお客様からの注文にも多大な影響があり、大幅な減収に繋がりました。

■フードパックラベル貼り作業

ダイエットクック白老より委託を受けて、フードパックラベル貼り作業・ポリ袋ラベル貼り作業を「みらいえ」と作業分担をして行っています。今年度は安定した作業委託があり、年間で488,649円の売上を計上しました。ダイエットクック側から、次年度は機械化を推奨していくとの報告がされ、下請け作業の終了の提示がされています。

■番重拭き取り作業

ライラックフーズ白老より委託を受けて、番重の拭き取り作業を行っています。作業量は少ないものの安定した作業委託があり、年間60,067円の売上を計上しました。

■印刷作業

名刺作成作業では、法人内・役場・町内民間業者・北海道札幌視覚支援学校を中心に注文を受けています。又、帯広市議会議員から定期的に注文を受け、点字の名刺が多岐にわたって定着してきたものと思われ、今年度は167,918円の売上を計上しています。利用者のペースに合わせ、年間を通して定期的な作業を確保する事が出来ました。

以上、今年度の収入は4,498,684円となり、昨年度収入5,054,560円と比較して555,876円の減収になっています。また、生産活動において食品を扱うといった観点から、苫小牧保健所の職員を招き、利用者向けの食品衛生講習会を開催し、感染症や食中毒予防に対する勉強会を実施しました。

【創作活動・療育活動・余暇活動・外出活動】

創作活動では「子供の日」「母の日企画」「父の日企画」「バレンタインデー企画」「ホワイトデー企画」等、季節に合わせて活動を実施しています。共生型事業所「はあもにい」の調理室を利用した「料理教室」では4班に分かれて実施を行い、回数を重ねるごとに調理の技術が向上し、活気のある活動に繋がっているものと感じています。

療育活動については、軽運動（ウォーキング・エアロバイク・電動ウォーカー）や、白老町立温水プールでの水泳、屋外での活動を充実する為、ポプリ横の空き地に芝生を整備し、更なる療育活動の充足に努めました。活動時は安全管理・事故防止に努めながら実施を行い、適度な運動時間の確保・気分転換に努めることが出来、情緒の安定につながっています。

余暇活動では、カラオケは4班に分けて苫小牧の「カラオケBox ゆめつくす」とポプリ2階食堂を使用して、毎月カラオケを実施しています。歌うことで情緒の安定や発散にもつながり、余暇の充実を図ることが出来ています。映画鑑賞については、月2回実施し、映画のジャンルを幅広くすることで、より利用者のニーズに応えることが出来ています。

外出活動は、季節に合わせて「花見」「水芭蕉見学」「果物狩り」を企画・実施しています。10月に秋季レクリエーション、3月に冬季レクリエーションを白老町武道館にて実施し、全身運動を行う事や、大きな声で応援する事で情緒の安定や発散、運動時間の確保につながる事が出来ています。11月に文化祭を共生型事業所「はあもにい」にて開催し、当日は利用者による合唱コンクールや読み聞かせに合わせた楽器演奏の発表をしました。合唱や、楽器演奏については練習を続け、1月に行われたポプリ仲間の会・家族の会合同新年会で披露し、達成感や充実感を得た活気のある活動につなげました。

IV、日常生活支援

・基本的な社会生活（挨拶・返事・マナー・ルール）の確立

日中活動を通じて社会的なマナーや身だしなみなどについて毎月一回の全体会や自治会を通して必要な情報を提供し、利用者自ら問題を提起し話し合いが出来るよう支援してきました。

・自治会活動への支援

自治会活動に関しては定期的に役員会を開催し、誕生会や全体会などの企画や運営について利用者主体に実施していけるよう必要に応じてバックアップをしてきました。行事などで役割に当たった方はそれぞれ責任を持って取り組んでいる様子が見られます。

また、今年度も引き続き活気を持って日々の生活が送れるよう月間表彰を行い、個々の頑張りが評価されモチベーション向上に繋がっていきました。

・行事の実施

平成 30 年度の旅行に関しては、今年度も各部署で予算や活動等の状況を考慮しながら、利用者の意見を取り入れ行先や内容を企画し実施してきました。

その他の行事としては毎月一回の誕生会、利用者新年会、バーベキュー、流しそうめん等を実施し、それぞれの行事を通して利用者同士の親睦と作業の活力へと繋がりました。時期と内容については下記の通りとなります。

・行事内容

日程	主な行事内容
4月	・新利用者歓迎会（自治会企画・運営）
5月	・仲間の会総会
6月	・ポプリー全体バーベキュー ・生活介護 果物狩り in 壮瞥町
7月	・パン工場給食部合同キャンプ（一泊旅行）穂別キャンプ場
8月	・ポプリー全体流しそうめん（ポプリー駐車場にて実施）
9月	・ななかまど清掃部（日帰り旅行）1班 ラウンドワンスタジアム in 札幌 2班 定山溪万世閣 in 札幌 ・生活介護（日帰り旅行）室蘭方面・白老方面
10月	・生活介護（日帰り旅行）洞爺湖方面・千歳方面 ・食品衛生講習会の開催
11月	
12月	・クリスマス会兼忘年会（各部署）
1月	・仲間の会・家族の会合同新年会（白老経済センター）（自治会企画・運営）
2月	
3月	・外部委託給食 一休そば
自治会活動	<p>・自治会活動の支援として、利用者が中心となり各種事業を円滑に進められるようバックアップ。</p> <p><主な活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月一回役員会の実施。 ・毎月一回誕生会と全体会 ・新年会と新利用者歓迎会などの企画と運営。 ・月間表彰の実施。

V、健康管理

年1回の健康診断を実施しました。その他、食後の歯磨き習慣、毎月の体重測定などを行いました。健康診断については、検査結果により、本人、保護者、家族、又 GH 利用者は看護師や地域支援センターあぶろと連携しながら必要に応じて再検査や受診を勧めるなど支援を行いました。

インフルエンザ対策（予防接種・室内の保湿）やノロウイルスをはじめとする感染症などの蔓延防止策として、マスクの着用や手洗いの励行、微酸性電解水の噴霧による消毒を行いました。

苫小牧保健所の職員を招き、利用者さん向けの食品衛生講習会を開催し、感染症や食中毒予防に対する勉強会を開催しました。

VI、給食業務

安心、安全な給食提供に配慮し実施しました。利用者への嗜好調査などを実施し、出来る限り要望にこたえ、季節感のある食事や行事食などの工夫を行いました。

給食製造は食品事業給食事業部への作業委託とし、利用者3名に対し職員2名～3名の体制で技術支援を行いながら進めました。

その他では、行事食（焼肉、流しそうめん）や誕生食の他、特別食（肥満食、刻み食など）の提供を行いました。また、外部委託給食として一休そばに依頼し本格的なうどんや蕎麦の提供を行いました。

VII、管理業務

日常業務では、業務効率、安定した事業運営のための研鑽を行いながら事務処理の適正化を目指し業務を遂行してきました。法人内部研修（事務部会）を重ねて事業所相互の協力と連携をはかり、様々な課題提起とスムーズな問題解決に繋がるよう取り組みました。

施設管理では、ポプリ横土地の芝生整備、パン工場床改修、ななかまど屋根・作業場床・食堂壁の改修等の営繕を行いました。また、ポプリ2階食堂のテーブル・椅子の更新、休憩室のソファ更新を行い、利用者の環境整備に努めました。

事務員のパソコン更新を行い、デュエルモニターを導入するなど、作業の効率化を図るべく整備を行いました。また、2色輪転機の老朽化に伴い、チラシや配布物等の充実、事務処理の効率化を図るため、フルカラー輪転機への更新をかけました。

法人内共通の栄養管理ソフトに更新し、栄養士が連携を図ることで日中活動と生活の場での献立に偏りが起きないように配慮しました。

研修関係では、職員の資質の向上を目指し、各種研修会への派遣を実施しました。障害特性などの専門研修にも派遣し、職員のスキルアップと意識の向上を図りました。研修後には職員会議等で報告を行い、情報の共有や課題提起に繋げました。

衛生・健康管理面では、毎日朝・夕方の館内消毒（トイレ、共用部分を中心に）を徹底し未然に防ぐよう心がけました。冬季のインフルエンザ流行時期を前に集団予防接種（任意）、微酸性電解水の噴霧等でノロウイルスはじめ感染症の予防強化、加湿器の増設による活動室の湿度保持などの工夫を含め、ポプリ内での感染防止に力を入れて行いました。

防災・危機管理に関しては、避難訓練を実施し利用者誘導の際の注意点や問題点を確認し、災害時の安全確保・心得など学習する機会を持ちました。白老町消防より講師を派遣いただき、職員対象に救急救命講習を行い、AEDの使い方や事故時の初動など、利用者の緊急時に即座に対応できるよう学習しました。また、9月の震災を受け、発電機の導入、備蓄品の整備を行い、万が一に備えました。

広報活動では、従来の法人機関紙の発行、ホームページ、フェイスブックに加え今年度よりインスタグラムを開設し店舗商品・イベントの宣伝など当施設の情報を積極的に発信しました。

苦情解決・虐待防止などに関しては、日頃より些細な利用者間のトラブルや悩み、家族の相談などに対し職員が都度時間をおかず直接対応し調整・解決すること、フォローアップを継続して行うことで、苦情としての取り扱いはありませんでした。

実習等に関しては、養護学校等からの体験実習や進路実習などの受け入れを行いました。行政からの紹介による利用者の受け入れも、法人内事業所との連携を図り、面談やケース会議・体験実習を行いながら対応しました。

なお、日中一時支援事業では今年度は利用がありませんでした。

VIII 利用関係状況報告

就労活動	収支	総収入	82,140,402 円 + 積立取崩	409,320 円
		(就労B	77,641,599 円 + 生活介護	4,498,803 円)
		総支出	81,216,871 円 + 固定資産	636,120 円 + 年度末積立
			696,731 円	
工賃支払い総額		22,490,724 円	(前年度実績 :	22,571,650 円)
就労B事業	月額平均額	1名	35,948 円	生活介護
	月額平均額	1名	6,799 円	

<定員構成>

*31年3月31日現在

	定員	契約数	男	女	入所者	退所者	備考
生活介護	20	25	17	8	2	2	入所：西尾・黒田 退所：佐野・伊藤
就労継続支援B	40	48	33	15	1	1	入所：斎藤 退所：五十嵐
合計	60	73	50	23	3	3	

<年齢構成>

	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
生活介護	2	9	8	2	3	1
就労B	0	11	7	22	6	2
合計	2	20	15	24	9	3
最高齢者 69歳 / 最年少者 19歳 / 平均 38.24歳						

<在籍年数>

入所年度	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
生活介護	2	1	1	2	3	1	1	1	2	1	1	0	2	1	0	0	0	2	4
就労B	1	2	2	1	0	3	0	2	1	4	0	1	0	2	3	1	1	11	13
合計	3	3	3	3	3	4	1	3	3	5	1	1	2	3	3	1	1	13	17

<障害区分>

療育手帳	A	B	なし	精神	身障
生活介護	18	6	1	(2)	(5)
就労B	12	36	0	(0)	(5)
合計	30	42	1	0	(10)

<居住別>

区分	2	3	4	5	6
生活介護	0	6	10	5	4
就労B					
合計	0	6	10	5	4

	自宅	GH
生活介護	14	11
就労B	23	25
合計	37	36

<出身地別>

	白老町	登別市	苫小牧	札幌市	室蘭市	千歳市	江別市	伊達市	三笠市	浦河町
生活介護	15	1	7	1	0	0	0	0	1	0
就労B	22	6	8	2	5	1	2	1	0	1
合計	37	7	15	3	5	1	2	1	1	1

平成30年度の動向

	施設業務関係	就労・生活事業関係	各種研修・行事その他
4月	<p>辞令交付式 永年勤続表彰並びに新任職員歓迎会 各種会議（支援会議、ケース会議、幹部会議、職員会議、部署会議、給食会議、看護師会議、運営会議、管理者会議） 会計事務所任意監査</p>	<p>利用者29年度期末手当支給 カラオケ・プール・映画鑑賞・料理教室・創作活動・水芭蕉見学 どさんこプラザ・きたキッチンオンローラ販売</p>	<p>新利用者歓迎会（昼食時） 利用者全体会 利用者誕生会 家族の会役員会 さくら総合会計・会計、労務セミナー</p>
5月	<p>法人監事監査 理事会 各種会議 事務員pc更新</p>	<p>よもぎ採取 生) 花見・創作活動・カラオケ・プール・映画鑑賞 ウエムラさくら祭販売 就) ゴールデンウィーク店舗営業 就) きたキッチンオンローラ店・新さっぽろ店販売</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 家族の会総会 新任職員マナー研修（社協） キャットアップ初任者研修（社協）</p>
6月	<p>各種会議 評議委員会 防火設備点検 健康診断①</p>	<p>生) 創作活動・カラオケ・プール・映画鑑賞・料理教室・果物狩り 就) 白老牛肉まつりBB販売 どさんこプラザ・きたキッチン・三越販売 知的障がい福祉協会パークゴルフ大会参加</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 屋外給食（バーベキュー） 胆振圏域福祉人材育成講座 北海道リハビリセンター見学 食品衛生講習会（苫小牧保健所） 管理者向けハラステメント研修（共済会）</p>
7月	<p>各種会議 健康診断② 会計事務所任意監査 オンブズマン来所 屋外運動場整備 パン工場内床全面張り替え工事</p>	<p>生) カラオケ・プール・映画鑑賞・料理教室・果物狩り 就) きたキッチンオンローラ店・新さっぽろ店販売 ななかまど夏のフェア実施 UHB『みんなのテレビ』ななかまど放映 パン工場・給食合同キャンペーン</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 胆振圏域福祉人材育成講座 菓子技術講習会（フジヤ田中商店） 経専実習生受け入れ 摂食・嚥下に関する基礎講習</p>
8月	<p>各種会議 ポプリーななかまど臨時休業（11日） 法人監事監査 衛生協会巡回</p>	<p>生) 利用者夏期手当で支給 プール・カラオケ・映画鑑賞・創作活動・料理教室 就) 笑顔まつり ご近所野菜市販売・ 振興会ビアガーデン どさんこプラザ・きたキッチン販売</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 屋外給食（流しそうめん） キャリアアパス研修（給与制度及び人事考課） キャリアアパス研修（労務管理）</p>

9月	<p>各種会議 評議委員会 理事會 會計事務所任意監査 防災委員会 前期モニタリング会議 輪転機更新</p>	<p>生) カラオケ・映画鑑賞・日帰り旅行・バイク JIN 販売・だて食フェス販売 祝) ななかまど 26周年記念セール ご近所野菜市 きたキッチンオローラ店、新さっぽろ店販売 ななかまど・清掃部日帰り旅行</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 苦情クレーム対応セミナー (社協) OJT担当者養成研修 (社協) キャリアアップ研修 (接遇マナー研修) 千歳養護学校実習生受け入れ</p>
10月	<p>各種会議 支援計画ワーキング会議 避難訓練 (地震・津波) 白老町避難訓練 (清掃部参加) 防災委員会</p>	<p>生) 料理教室・プール・カラオケ・映画鑑賞・創作 活動・日帰り旅行・料理教室・秋季運動會 祝) 苫小牧港イベント販売 きたキッチン、きたキッチン販売 ななかまど・清掃部日帰り旅行</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 胆振圏域福祉人材育成講座 救命救急講習 食品衛生講習会 (利用者向け) キャリアアップ研修 キャリアアップ管理者研修 (社協) 介護職員専門研修 I (社協) サービス管理責任者研修 (第4就労) 室蘭養護実習生受け入れ</p>
11月	<p>各種会議 会計事務所任意監査 インフルエンザ予防接種 胆振総合振興局集団指導</p>	<p>生) プール・カラオケ・映画鑑賞・料理教室・ 文化祭・日胆スポーツ交流會 祝) きたキッチンオローラ店、新さっぽろ店販売 白老中職場体験受入</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 胆振圏域福祉人材育成講座 労務リスク対応セミナー (社協) エルダーマスター制度導入支援研修 (社協) 経理担当者専門研修 (社協) いぶり労働問題セミナー サービス管理責任者研修 (第3地域生活) キャリアアップ研修 法人内研修 (研修報告會) 年末調整事務説明會 消費税増税・軽減税率説明會 札幌この実を見学</p>
12月	<p>各種会議 消防設備点検 法人監事監査 年末挨拶回り</p>	<p>生) 各部署忘年会企画 利用者冬期手当て支給 祝) 元氣町応援コーヒーチケット還元 プール・カラオケ・映画鑑賞・忘年会 お歳暮餅事業・年末餅事業</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 胆振圏域福祉人材育成講座</p>

			札幌年末販売 どんこんプラザ きたキッズオンローラ店、新さっぽろ店	
1月	各種会議 年頭所感 会計事務所任意監査	保護者・仲間の会合同新年会 生) カラオケ・映画鑑賞・料理教室 就) ななかまど初売り 札幌三越販売・きたキッズ販売	利用者全体会 利用者誕生会 胆振圏域福祉人材育成講座	
2月	各種会議 支援計画モニタリング会議 三者面談	プール・カラオケ・料理教室・映画鑑賞 パレンタイン企画 生) ななかまどパレンタインフェア 就) きたキッズオンローラ店、新さっぽろ店販売	利用者全体会 利用者誕生会 仲間の会節分・パレンタイン 胆振圏域福祉人材育成講座 法人研修実践発表会 消費税込改正セミナー 日胆支援研修会	
3月	各種会議 会計事務所巡回監査 法人内部監査 三者面談実施、利用契約	各種見積提出 たな卸し 生) プール・カラオケ・映画鑑賞 就) 冬季レクリエーション・ホワイトデー企画 どんこんプラザ・きたキッズ	利用者全体会 利用者誕生会 仲間の会ホワイトデー 日胆地方会調身体験研修会 外部委託給食 一体そば	
4月		利用者30年度期末手当支給		